



No.62
東筑組仏教壮年会連盟
広報委員会

第25回即如御門主(一)巡教記念法座

日時 平成29年10月22日17時より
会場 大谷会館 北九州市八幡東区大谷二丁目二一四

御講師 外松太恵子 師



全国各地の浄土真宗の僧侶研修、仏教婦人会、仏教壮年会

の講演の御講師。数々の教育講演・保育園・小学校・中学校の保護者の講演会でも大変有名な外松太恵子先生にお越しいただくことになりました。先日は、本願寺山口別院にて「初めて学ぶ真宗講座」のご講師をお勤めいただき、大変好評でした。

第25回記念大会ですので、仏教壮年だけではなく、どうぞご夫婦でお越しください。子育て中の方にもお勧めいただければ幸いです。

●参加費 千円
●懇親会費 三千円

プロフィール

■北九州市と福岡県の青少年カウンセラーを歴任。「夜の子ども相談室」主宰。

■全国各地の浄土真宗の僧侶研修、仏教婦人会、仏教壮年会の講師。本願寺出版社の月刊誌「大乘」に「慕情・私の親鸞さま」を連載。

■著書に「悩みのち晴れ」「心のポケットに言葉の花束を」「金子みすず・いのちのうた」他多数。

大変わかりやすい御法話で、初めての方も是非お参りください。



ヴァイオリン 井石 弾

若宮市の明覚寺に生まれ、現在佐賀県報恩寺の後継住職。東京音楽大学卒。

伸びやかで繊細、それでいて迫力のある、時には艶やかにして重厚な音色。心で奏でる音色は人々を魅了します。

ピアノ 野口 志保

ヴァイオリン・声楽・合唱など伴奏のスペシャリスト。

低音は重いハンマーで叩くように、高音は猫が歩くように…。音と音とが絡み合いもつれあう音色。その音色は、今注目の音楽療法でも活躍中。

そうだ！ 京都へ行こう！ **御正忌参拝ご案内** 定員：40名

日程：平成30年1月15日(月)・16日(火) ※申込み受付：10月2日～12月2日

季節ごとに表情を変える京都。凜とした冬の京都。西本願寺へのご参拝

旅行費用 38,000円前後	旅行日程 (予定)
法要懇志 ：10,000円 ※法要懇志を納められますと、本願寺より特別におとぎの接待がございます。	15日 8:20集合 一路本願寺へ到着後、希望者はおとぎの接待 大谷本願に参拝(希望者は献金) 宿泊は本願寺の宿坊(開法会館)
帰敬式 (冥加金10,000円) ※本願寺より法名をいただきます。	16日 午前 御正忌報恩講法要参拝 午後 帰敬式受式(希望者) 17:55小倉着

福岡教区仏教壮年会連盟 総会

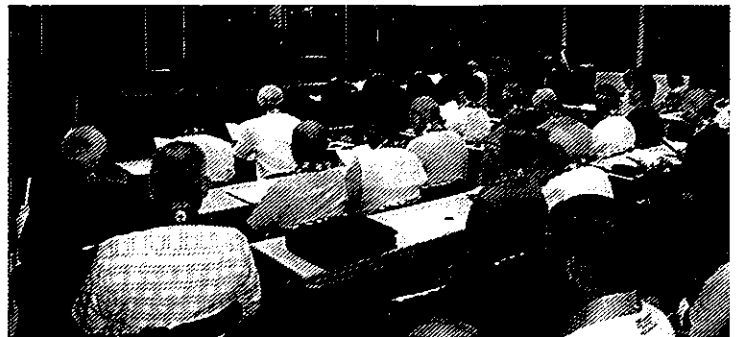
2017(平成29)年 6月24日(於:本願寺福岡教堂礼拝堂)

渡邊 一広(満福寺)



6月24日、本願寺福岡教堂礼拝堂において参加175名、東筑組から藤井会長以下9名が参加しました。
10時開会式、勤行(正信偈)の後総会において、平成29年度(活動方針、事業計画、会計予算)が承認されました。
記念講演は、怡土組教法寺住職原田智昭師による「仏教壮年会のこれまでとこれから」についてでありました。

これまでについては、仏教壮年会連盟の歴史は浅く、全国の連盟が発足して38年しか経過していませんでした。
これからは、全員聞法・全員伝道で宗門の「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)の担い手として、組・寺院において活動を展開していただきたい。
そして、もっと外に目を向けて社会の問題に対してひとりひとりが輝いていける世界を創ってほしいと述べられました。



2017(平成29)年度

東筑組仏教壮年会連盟 会計予算

2017年4月1日~2018年3月31日

◆収入の部

(単位:円)

項目	前年度決算額	今年度予算額
前年度繰越金	816,854	995,422
各寺負担金	264,000	264,000
助成金	360,000	360,000
ご巡教記念法座	193,000	150,000
記念法座懇親会	0	450,000
総会懇親会費	282,000	274,000
雑収入	0	1,000
預金利息	10	10
合計	1,915,864	2,494,432

◆支出の部

(単位:円)

項目	前年度決算額	今年度予算額
全国連盟会費	96,000	99,000
教区連盟会費	66,000	66,000
ご巡教記念法座	177,054	150,000
記念法座懇親会	0	600,000
広報費	156,020	170,000
振興費	4,000	10,000
研修費	4,000	10,000
執行部活動費	20,534	40,000
出張費	57,000	80,000
会議費	55,000	65,000
通信費	9,300	15,000
事務費	4,886	10,000
総会懇親会費	270,000	280,000
仏壮全国大会補助費	0	200,000
雑費	648	2,000
予備費	995,422	697,432
合計	1,915,864	2,494,432

第22回 東筑組 親睦ボウリング大会

6月18日(日) 桃園シティボウル 47チーム 187名参加

ボウリング大会チャリティ募金(熊本地震復興義援金)へのご協力ありがとうございました。募金額:24,862円(ストライク1回につき百円の募金)



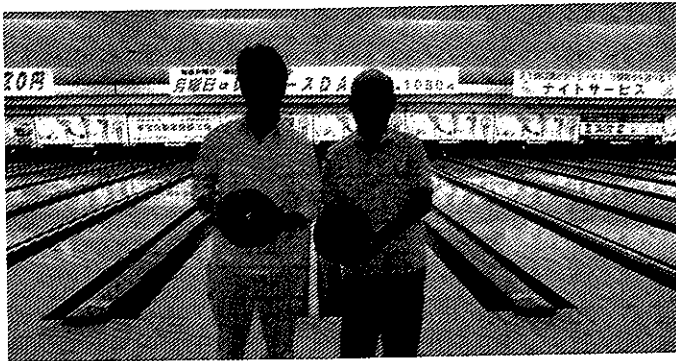
団体賞

優勝	放光寺 A	1394 点
2 位	浄円寺 A	1303 点
3 位	光隆寺 B	1293 点
4 位	敬行寺 A	1259 点
5 位	妙泉寺 B	1151 点



個人賞

優勝	笠岡 隆一 (放光寺 A)	470 点
2 位	上田得津子 (敬行寺 A)	399 点
3 位	江上 博雅 (浄円寺 A)	395 点
4 位	花田 利秋 (妙泉寺 B)	377 点
5 位	東 義高 (西念寺 A)	359 点



親鸞聖人七五〇回大遠忌法要
妙泉寺開基四五〇年記念法要
妙泉寺第十八世住職継職。
記念事業奉告法要

妙泉寺第十八世住職 鳥井 真史

平成 29 年 4 月 22 日・
23 日の二日間、妙泉寺にて親鸞聖人七五〇回大遠忌法要、妙泉寺開基四五〇年記念法要、妙泉寺第十八世住職継職・記念事業奉告法要を素晴らしい天気の下、厳修させていただきました。

今回の法要に際して、私は今まで着たことのないような衣体をつけさせてもらいました。その衣体には裏に『第十五世住職継職法要記念』と刺繍されています。私の父が 26 年前の



大法要の時に、門信徒の方より頂いた衣体でありました。その上から、今回の大法要に際して、門信徒の方々より頂いた、『第十八世住職継職法要記念』と刺繍の入った七条をつけさせてもらいました。本当にたくさんの方の気持ちがかもっているようで、そして、父と共に勤めさせてもらっているんだなと感じました。本当にありがたいことでした。

二日目の午前中に行うことができた稚児行列。その一緒に歩いた方々の中には前回、26 年前は稚児参加者として、そして今回は子ども達の保護者として参加させてもらいましたという方もいらっしゃいました。法要委員の中にも前回も委員として

稚児を歩いたという方もいらっしゃいました。



妙泉寺がこの地に建立されて今年でちょうど四五〇年になりました。多くの困難があったと思いますが、そんな中でも本当に多くの方々に支えられ、多くの方々とのご縁を頂いて、歴代の住職、門信徒の方々、ご縁ある方々がお念仏の慶びを伝え、護寺してくださいました。私も次世代へお念仏の輪が広まるように日々を大切にしていきたいと思えます。本当に多くの方々に支えられて、今回の大法要を迎えることができました。心より御礼申し上げます。

合掌

仏教と歴史

第13回

吉水時代の親鸞聖人

浄楽寺住職 麻生暁文師

今回は、「一念多念」の念仏の問題と合わせて、「信行両座」の意味を改めて窺ってまいりたいと思います。

まず「一念多年」といいますのは、初めに「一念」とは、一声の念仏でも浄土に生まれることができるという考えであります。

次に「多念」とは、念仏を多く称えて浄土往生を願うことであります。

法然上人は、一念往生を認める発言をされておりますが、上人自身は一日に数万遍の念仏を称えておられました。

改めて、前回申し述べました「信心心諍論」との関わりでまとめてみますと、この時の親鸞聖人と法然上人との会話につきましては、以下のように窺うことができます。

親鸞聖人：私と法然さまは同じ。法然上人：私も親鸞聖人も信心において同じ。

他の弟子：親鸞聖人はとんでもないことを言う人だ。

ということになります。

また、「信行両座」におきまして、親鸞聖人・真空・聖覚・法力(熊谷直実)・法然上人の選択は

↓○信不退：信心で浄土に生まれる。

↓×行不退：念仏の行をはげんで浄土に行く。

ということが出来ます。言い換えますと、念仏には信心がなければならぬということが出来ます。

親鸞聖人は、『高僧和讃』の中におきまして、「本師源空(法然上人)世にいでて、弘願の一乗(全ての人を救う念仏の教え)ひろめつつ、日本一州ごとごとく、浄土の機縁(浄土に生まれるチャンス)あらはれぬ」と、たたえられています。

今回は、隆盛していく法然上人の念仏教団に対する、比叡山や興福寺を中心とする、旧仏教側からの上人の念仏教団がどのように対応していったのかということ、少しずつ見てまいりたいと思います。

第22回全国仏教壮年東北大会

『ともにいのち輝く朋友の笑顔』

東筑組壮年委員会 上田 勝巳

9月2日、杜の都仙台市で、1300人の参加による第22回全国仏教壮年会東北大会が開催されました。

あの未曾有の東日本大震災から6年半。全国から寄せられました温かいご支援に感謝する場として、笑顔をテーマとした大会を実現されました。

最初にご門主様の祝辞をいただきました。大震災後の現況が各地に伝わることで、それぞれができる支援活動の継続をお願いしたい。また、各地で大きな自然災害が相次ぎ、困難な状況に置かれている方は後を絶ちません。今こそ浄土真宗のみ教えを依りどころとする御同朋の笑顔を作って参りましょう、と話されました。

続く記念行事として落語が披露され、皆の笑顔を実現しました。最後の記念講演は、宮城組専念寺のご住職、足利一之師より「たのむより先に」との講題で法話をいただきました。専念寺のご門徒さんも35名が往生され、未だに行方不明の方が2名おられるそうです。ご本尊のお木造も津波に流され、塩水に浸かり、泥だらけ、傷だらけ



第22回 全国仏教壮年東北大会

の姿で戻ってきたそうです。この阿弥陀様の前で手を合わせるたび、震災直後より心を碎き、様々な形でご支援を続けてくださる「お念仏の同朋」に「浄土の慈悲を実践する姿」と感謝していると結んでいただきました。

仙台市の訪問だけでは震災の爪痕はすっかり癒えたとは錯覚しがちですが、自主避難の方を加えると12万人あまりの方々が未だ避難先での不自由な生活を送っておられます。自他ともに心豊かに生きることをできる社会の実現を目指し、仏弟子としての笑顔の輪を広げられるように努めて参りましょう。



http://www.tochikuso.jp/

